



タアサイ(アブラナ科アブラナ属)

タアサイはツケナの仲間で、中国語で「塌菜」と書きます。「塌」は「つぶれる」という意味です。葉は平たく杯状に広がっており、さじ状で縮れがあり、日本の野菜では「キサラギナ」に似ています。チンゲンサイと共に、代表的な中国野菜です。

「品種」品種分化が少なく「緑彩」「三」(サカタのタネ)、「タアサイ」(タキイ種苗など)として販売があります。

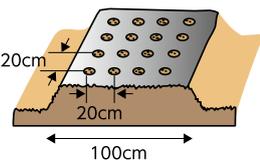
「畑の準備」種まきの2週間前までに1平方m当たり苦土石灰100gをまき、酸度を矯正しておきます。1週間前までに堆肥1kgと化成肥料(NPK各成分10%)100gを施し、土とよく混ぜておきます(図1)。次に、幅1m、高さ5cm程度の栽培床を作ります。

図1 畑の準備



「種まき」春まきでは条間15cm、株間15cm、秋まきで大株にするには条間20cm、株間20cmに1カ所5、6粒の点まきをします(図2)。発芽まで土が乾かない程度に灌水(かんすい)し、発芽後は土が乾いたらたっぷりと与えます。なお、ポリマルチを使うと、生育の促進に加え、土が葉の間に入るのを防ぐ効果があります。

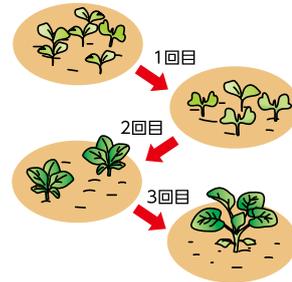
図2 種まき(秋まき)



種まき後は防虫ネットでトンネルを作り、害虫から保護します。また、べたがけは発芽促進と害虫の防止になるため、1カ月程度被覆するのも良いでしょう。

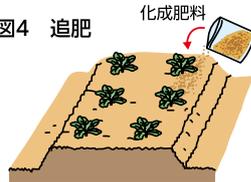
「間引き」1回目は発芽後、込み合っている株を除き、2回目は本葉2、3枚の頃に2本、3回目は本葉5、6枚の頃に1本にします(図3)。

図3 間引き



「追肥」大株に育てるには、最後の間引きの半月後に化成肥料を畝間にばらまき、軽く土寄せします(図4)。

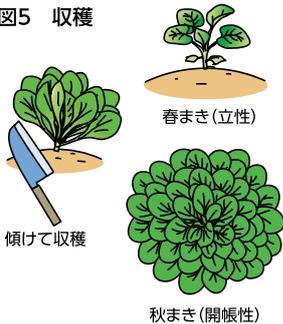
図4 追肥



「病害虫防除」アブラムシやアオムシ、ヨトウムシなどが発生します。アブラムシには粘着くん液剤など、アオムシ、ヨトウムシにはトアロー水和剤CTなどを使用します。長雨のときは、べと病や白さび病が発生しやすいので、株間を少し広めに取ります。

「収穫」春まきでは株が立性になり、草丈25cmくらい、秋まきでは、葉が大きく広がって開帳性になり、上から見て直径20cmくらいから収穫を始めます(図5)。

図5 収穫



※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



栽培計画

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋まき栽培								○	○	●	●	
トンネル栽培										○	○	●
春まき栽培				○	○	●	●					

○ 種まき ● 収穫 ○ トンネル被覆

JAグリーン津店が
タアサイ
栽培のポイント
教えます!



JAグリーン津店
グリーンアドバイザー
認定 城博一

「植え付け」市販のタアサイ苗や育苗したポット苗を植え付ける場合は、根鉢を壊さないようにして植え付けましょう。根鉢の大きさ程度の植え穴を掘り、根鉢の肩を地面と同じ高さにします。株元に土を寄せて軽く手で押さえ、たっぷりと水やりをしてください。

「収穫時期」種まきから40〜50日後が収穫の目安となり、株の直径が20〜25cmになったら収穫しましょう。秋まきの場合は10月下旬から2月頃まで、春まきの場合は5月下旬から6月頃まで収穫できます。秋まきの場合は、霜が降りる頃に甘みを増すので、種まきを少し遅らせる方法もおすすです。

比較的小さい野菜で、中国産の代表的な野菜で青梗菜と同じ白菜の仲間です。カロテンやビタミン類が豊富で、クセがなく、中華料理や炒め物、和え物などの料理に最適な野菜です。